

各期同期会の活動状況

■高17回



「開かれた同窓会」を合言葉に、本部定期総会が母校の歴史上初めて飯田を離れ東京で開催され、高17回がこの記念すべき東京開催の当番幹事の大役に当たりました。飯田・在京事務局の支援を受け、実行委員を中心に多くの仲間のご協力により、6月9日アルカディア市ヶ谷で盛大かつ有意義な総会を開催することができました(出席者総数380名、内17回72名)。

昨年の7月に飯田より井出(飯田事務局長)・宮澤(学年代表幹事)、在京から田中・木村・萩元・脇坂の各君が出席し実行委員会を立ち上げ、その後委員の数は徐々に増え、25名に及ぶ体制で準備は順調に進みました。

この間、総会までに数回の委員会を開き、総会開催の周知、講演講師の選定、受付、議長などの役割分担、懇親会のアトラクションの手配など諸準備を進めました。この中で、講演は増田君に「原発事故とエネルギーに対する我々の責務」という格調高い話をしてもらい、エネルギー問題に対する皆さんの認識を深めることができました。

懇親会の最後に壇上での17回全員によるアピール「集いたる 十七回の 仲間たち 母校の為に 一致団結 母校の為に」で無事総会が終了。当番幹事の役割を務めることができました。レストランでの2次会には60名が参加、東京の夜の同窓会は大いに盛り上がりまし



た。

また、総会翌日は、東京スカイツリー、上野の森美術館などを巡る東京観光ツアーに参加し、母校で果たせなかった楽しい修学旅行となりました(参加者数39名、内17回20名)。(脇坂英文記)

■中42回

中学42期在京同窓会（しのお会）は毎年4月の開催を続けてきましたが、会員も寄せる年波には勝てず、残念ながら平成23年4月12日の開催が最後となりました。

その歩みを顧みる時、世田谷区三軒茶屋の五平餅屋、四谷の綿半ビル司別館、横浜加登屋、均昌閣での開催や遠山旅行、飯田のお練り見学など思い出は尽きず、また発行された文集1・2・3号は記念すべき宝となって残っています。（棚田直彦記）

■中45回

中学45期の我々は、日米開戦の昭和16年に入学。敗戦を迎えた昭和20年3月、4年で繰り上げ卒業となった。正に戦争の申し子である。真珠湾攻撃で大勝。次にシンガポ



鼎の小学校を借り、重箱持ち寄りの大宴会となる。特別配給の酒、ドブログもあった

ルの陥落と、連戦連勝で浮かれていた翌17年、神国日本は突如、米軍爆撃機の襲来で驚天動地、大きな衝撃を受けた。2年で陸幼へ1人、3年の夏、予科練に大勢応募。学徒動員令により伊那町飛行場、遠山発電所の労働に駆り

出された。軍人組設、陸士、海兵合格者多数。本校有史以来の快挙と賞賛、担任教師は面目躍如たるものがあった。やがて敗戦、期友はバラバラ消息不明だったが、昭和22年飯田市大火の後、第1回同窓会総会を開催。メチル先生が参加してくださって大盛況で期友は満面の笑顔だった。在京同窓会ではこれを参考にし昭和28年に開催。以来期友の協力により昨年まで続けてきた。『平和』の恩恵に浴し今や85歳。夢想不到に逝かなかった長寿の歓喜に包まれている。昨年は19名の在京期友も参加者8名。年々体調不良の声が多くなり、同窓会もこの辺が潮時かなーと！昨年をもって閉じること



6月9日に開催された同窓会総会懇親会にて

にした。本年は小林平志学年幹事から「東京で同窓会総会開催の機会に一人でも多くの期友の参加を！」との呼び掛けに応じ、後藤英明、中山浩一、宮澤功衛、福澤盛吉、吉澤郁男、飯田からは小林平志、田畑達夫、吉村廣が参加しました。

期友の皆さん、これまでの長きにわたり本当にありがとうございました。

（井原、福澤記）

■中46回

「春に5月はただ一度」日本でも知られたドイツ・リードの一節である。わが飯中46期首都同期会は発足以来その5月を開催月としてきた。

今年の同期会は5月13日、参会者は幹事がひそかに設定したラインの20を4人下回るものだったが、一同意気軒昂。「校歌」に始まり「黒雲湧けよ」「長姫城頭」と歌いつぐにつれ、いつもながら諸兄の横顔は80余歳のそれからみるみる



往時飯中時代の紅顔に立ち戻っていくのだった。

そして大合唱のあい間、満澤君が語りはじめた。「幻の名車を復元した男たち」に一同耳を傾けたのであった。

日本中を巻き込んだ60年安保から2年、62年の全日本自動車ショーにトヨタが問うた「パブリカスポーツ」の車体設計者こそは30歳を出たばかりの満澤君その人であり、「高い理想と理念に基づいて設計開発されたクルマ」は「つめかけた若い人たちの心を強く打った」のだった。

その日から下ること50年、「愚かなクルマ好き」を自称するトヨタOBら5人が5年がかりでパブリカスポーツを完全復元、トヨタ博物館にめでたく展示するところとなった。

満澤君が所持していた詳細図面が「決定的役割を果たした」ことはそのOBの一人が証言するところである。

ここで一言、齢80余ともなれば「とっておきの話題」にはこと欠かないもの。今回の同期会では「とっておきの話」の時間を設定してみてもどうか。（林建彦記）

■中47回

「旧制飯中東京47会」は、4月6日に定例総会を開催。会場は矢澤西二幹事に尽力を願う、早稲田大学の「永楽倶楽部」（永田町）で、出席者は29名。支部別内訳は、東京20名、飯田5名、中京4名。

幹事新任の平田達君からの提案により、前座余興として「郷土講談」を聴くことになり、牧内雪彦当番幹事が企画し、講談師は神門久子師（尊父は山岸忠彦氏、中46回、画家）、演題は同君原作の「若き日の椋鳩十ものがたり」のほか、古典の名作一席を楽しく聴くことができました。

『中学校が

軍需工場になった』

長野県飯田中学校生徒たちの昭和20年（1945）春秋



A5判・500頁余

●お問い合わせ
横浜市保土ヶ谷区仏向西19-10
『学校工場再現文集』刊行合同幹事
会事務局（担当：松本）
045-331-2480

伊藤祐保当番幹事が開会の挨拶を行い、続いて平田君が幹事就任の挨拶を行った。平田君は、今般、同窓会副会長
の要職を辞したが、その永きに
亘る母校と同窓会の発展への
尽力、貢献は、周知の通りです。

長い間、48回（高2回）と
合同で取り組んでいた『中
学
校が軍需工場になった』長野県
飯田中学校生徒たちの昭和20

年（1945）春夏」は、5月に上梓が成ったが、その進捗状況等を編集幹事会代表の牧内君が報告した。また、米山和夫幹事から、この出版事業に対し、個々の醸出金とは別に飯田支部を合わせ10万円の助成金の支出について諮り、賛成を得て、後日、濱次雄幹事が執行。なお本書は、戦後の早い時期から、後世のために飯田中学校工場の歴史を書き残すことの重要性に着目し、今は亡き小瀬水敏郎君とともに資料の収集などに努めて



いた牧内編集幹事会代表の思いが愠り、今般、学校史を補う書として出版されたものです。

絆をより確かなものにする一助として、今回は欠席者にも集合記念写真を送り届けた。中部支部から塚平信彦君編集の随想集「東海の小島の磯の白砂に」第4集が贈呈された。前号同様、力作が一杯、感謝。疎遠になりがちな支部の友も迎え、講談を聴き、神門師にも紅一点の参加を願い、美味しい料理と美酒に酔い久闊を叙し、桜は既に散り雨模様の日でしたが、充実感に満ちた最高の半日でした。

（宮澤和夫記）

■中48回・高2回

中48・高2同期会（春）は、首都圏在住者を中心に、今年も例年通り4月第1土曜日にアルカディア市ヶ谷で開催された。2月の寒さで開花の遅

れが予想されていた桜が3月末には咲き揃ってしまい、花見の機は逸したものの、80歳を超える高齢者たちとしてはまずまずの出席率で、和気藹々のうちに再会を果たしたのは大慶のいたりだった。

宴席に居並ぶ顔はみな見覚えのある顔で（当たり前だ！）何を今更という気がしないでもないが、中には名前が出てこないケースも間々あってもどかしいけれど、それも「懐かしさ」の一変型と思えばいいのではないか。少々くたびれたオジイサマたちが、やがてあちこちのテーブルにトグロを巻き出すころ、いつの間にか喜久水の大吟醸「翠嶂」が登場して呑ん兵衛たちの腹中に滲透してゆく——こういう昼酒はめったに呑めるものではない。

さて、ここで正気に立ち戻ってご報告するなら、わが同期には先ごろ刊行を見た下

キュメンタリ文集「中学校が軍需工場になった」の編纂に関わった者が数多い。執筆者はもとより、まとめ役の常任幹事諸氏の労を多とするが、中でも松本敬司の献身的と言っていい尽力は特筆に値する。この文集は同窓諸兄弟にぜひお読み頂きたい貴重なドキュメントであり、わが同期会はこれが刊行支援のため、会の積立金から10万円を拠出することを決定した旨を申し添える。（当番幹事・安藤道也、富永明夫、原田守）

（富永明夫記）

■高4回

「この季節がくると何故か

肌を風を感じる

その風に押されて集う

愉快的仲間たち」

今年もこんな出だして始まる案内はがきが届いた。

特に今年は同期会（27会）

が発足して50周年と、傘寿のめでたい節目が重なって盛会を予測していた。

しかし時を同じくして小島麗逸君（元アジア研究所長・北京大学客員教授）が郷里阿智村の「満蒙開拓記念館」設立に当たり特別講演を行うという重要な行事と重なったため、いつもの飯田組がやむなく不参加という事情もあって50名割れの総会となった。

でも開会の挨拶に立った福沢富夫代表幹事は記念すべき総会に相応しく有名な彫刻家平岡田中の名言を引用し「60・70ははなたれ小僧！男ざかりはこれから！これから」と仲間たちを励ましていた。

今後の会の運営については60回大会まで3千円会費を継続。その後は生き残った者たちが決める。（拍手・笑い）ただ、来年からは畳席は勘弁が多数。椅子席にすることと来年だけ2千円会費にする事

が（拍手・笑い）で決定する。宴の終わりは全員が一つの輪になって校歌、信濃国の大合唱！肩組み蛮声張り上げて歌う姿は青春が甦っているのか、過ぎ去りし歳月に思いを馳せているのか、老いた眼に輝きを取り戻していた。

次回の再会を力強い握手で誓い合って散会となったが、会場の出口の隅に貼ってあった「毛筆の詩・詠み人しらず」は帰る仲間たちの背中に無言の風を贈っていた。「傘寿すぎ卒寿をめざす道すがら髪は白々心黒々」幸せあれと！。

この総会が終わって5日後、我らと同じ年齢の冒険家三浦雄一郎さんがエベレスト登頂に成功、世界最高峰から80歳の風は最高の贈りものだった。（福澤里次記）

■高6回

わが6期在京同窓会の活動

母体は『三水会』である。新宿三平での月例懇親会は、平成14年に発足、以来11年間欠くことなく毎月第3水曜日に開催されている。開宴の前に囲碁を楽しむ者があり、お開きの後には麻雀、カラオケに興じる者がある。

懇親会、会費は割り勘で23千円。話題は、政治、経済、社会に亘り、日本と伊那を語り、自然に中国、朝鮮へと及ぶ。尽きる事なしである。その席から同時開催の飯田に電話を入れて、「今日は何人、そっちは」とエールを交わす。毎年4月の年次総会も、『赤石会』の名で開催する春と秋のゴルフ会も、ここから始まる。

さて、今年の総会出席者は41名で、なんとか昨年並みを維持した。配布された6期生名簿では総勢281名、この1年間での物故者は4名と報告された。中に昨年の総会幹事1名と記念写真の撮影者の

名があり、一同その急逝を惜しんだ。

旅行会の『三水会ふるさとめぐり』は、別表のように今年8回目である。故郷ならぬ「青森の古代を探访して各自の歴史認識を質す旅」にしたいと、参会者で話を重ねている。ほぼ毎回、話題は先ずお互いの健康チェックから始まって、故郷、次世代へと流れ、竹島、尖閣、北方四島、

6期生 三水会旅行会催行次第

回数	テーマ・宿泊	催行年月	参加数
第1	下田巡り・蓮台寺清流荘泊	19年2月	32名
第2	遠山霜月祭見学・ロッジ泊	19年12月	29名
第3	大鹿歌舞伎見学・山景館泊	20年10月	30名
第4	清内路花火祭見学・昼神荘泊	21年10月	30名
第5	飯田獅子舞祭見学・大平宿泊	22年10月	32名
第6	ハワイ4島巡り・船、ホテル泊	23年5月	13名
第7	安曇野巡り・白骨齋藤旅館泊	24年6月	40名
第8	平成25年は、津軽巡りを予定	25年10月	

沖繩、靖国、原発、地殻変動、経済再生等々、多くにすぎざる諸課題を巡り、やがて議論の輪は、日本人、日本文化の未来へと広がってゆく。今回は、議論の輪が古代東北にも及び、探訪の意義を説く者の声に傾かされた結果、津軽巡りを在京者2泊3日で決定した次第、同期諸兄弟の多数参加を望んで止まない(旅行会幹事・下原喜好)。(藤本義久記)

■高8回

今年の八松会関東支部総会は例年と異なり、6月9日(日曜日)午前11時からアルカディア市ヶ谷で行われた。出席者は34名(女子5名)。

例年6月の第1金曜日夜方5時からの開催であったが、今回は飯田高校同窓会に併せる形をとり昼食懇親会となったのである。11時開会予定であるから受付は10時半から始まる。



飯田高校同窓会場 中島会長を囲む高8回生

八松会は40年近く続いているが、午前11時開催は初めてのことで幹事会でも何名参加して貰えるのか予測できなかつた。

八松会の会長が、中島清同窓会長だから何が何でも同窓会に併せての開催にしようという幹事会の意見がまとまり、開催案内を飯田高校同窓会事務局からの案内とダブルさせたため、会員からの問い合わせや返信落ちなども起き一部事務が混乱した。

八松会当日は予定どおり午前11時開会。

飯田から出席の中島会長か

ら冒頭の挨拶があり、出席者も中島会長の挨拶する姿を注視し声に耳を傾けた。中島会長の第一声「皆さん今晩は…」に爆笑が起き、一気に会場は緊張から和みが変わって仲間同士の懇親会が始まった。

引き続き今回初めての出席者や久し振りの出席者から自己紹介と挨拶。

飯田市から 吉川碩人(上郷支部長)、宮内兵三(下久堅支部長)、塩澤光博。長野市から斉藤勝久。岐阜県から宮島直司。

なお、中京支部の竹村公彦氏から著書の寄贈があり全員に配布された。

和やかな会も、12時15分予定どおり閉会し、中島会長から差し入れのふるさとの銘菓をおみやげに同窓会場に移動した。(司会・羽場良和 開会・大澤武文 黙祷・飛田明美 著書紹介・秦 初博)

(新井宏宣記)

■高9回

高9回卒関東地域同期会が6月10日アルカディア市ヶ谷にて開催されました。関東地域在住の120名中29名の参加をいただきました。

今年、我々同期生は、昭和32年に卒業後57年になります。後期高齢者という、冠たる称号がつく年齢層に到達です。今回はその節目の75歳記念同期会でもありました。

この称号に負けず、皆さん若々しい元気なお顔で出席され、活力あふれる多くのお話に、新たななる元気を貰えた同期会でありました。

アトラクションとしてマジック、フルート演奏、吟詠尺八演奏の出演が加わり、盛會がさらに盛りあがりました。マジックは30歳の頃にマジッククラブで鍛えた玄人肌の技を鎌田さんが演じて下さった。次々と百円硬貨が湧

き出る技などは、お小遣いの貧しい我々には羨望？もの。飯田から遠来の片桐さんのフルート演奏は静かな懐かしみの名曲。

吟詠の部では、「岳精流日本吟院支部、千代田岳精会」の古参である酒井さんの独吟と、その弟子として特訓中の塚田、広瀬各氏、細田、吉田女史の合吟。いずれも懐かしい高校漢文講義でおなじみの有名漢詩を吟じて下さった。

尺八演奏では、最近親しい方を亡くした方から（我が年齢層になるとこれが多い）のリクエストに應えての中川さんのアメージンググレース曲は、尺八の独特な音色で心にしみ入る演奏でした。

尺八歴の永い石川さんは、幾つかの会活動に参加され、地方公演もこなしている熟達者で、尺八と言うものの解説から、持参の高価な尺八のご披露、そして小音を微妙に奏

する古曲の名演奏は、無料で聴くには惜しまれるような見事な腕前でした。

お話の部では、三石さんの対北朝鮮、対中国など問題の多い昨今に「武器なき国防」の高邁理論。それと宮内さんの息子を語る詐欺師の逮捕劇体験談は出色でした。

当初の騙される心理、やがて気付く経緯、そして警察との協力逮捕とは、あやうい高齡の我々の良き教訓でした。

また75歳、今なお盛んなご活躍の様子とか、高齡になつての友の作り方のお話なども大いに参考になりました。

当日は皆さんがそれぞれ新たな元気を貰って、来年の同期会にも是非参加しよう、との意を強くして帰られたと思います。

75歳記念同期会の様子を以上ご報告致します。

（原俊夫記）

■高16回

卒業50周年を記念して去る4月13日・14日、昼神温泉で約70名の出席で大会を挙行しました。

特筆すべきは、一六会会長で飯田医師会会長でもある市瀬武彦氏により『事前指示書——自分の最後は自分で決める』が各自に配布されたことです。これは自分が受ける末期治療についての要望と指示を家族、医療代理人に記入し



て残すもの。同期生もすでに35名が物故者となっているだけに、皆、身近な課題と受け止めたようです。

翌14日は、有志でバスに乗り、飯田郊外の桜見物と洒落込みました。あいにく陽気に先立たれ、ウバ桜でしたが、還暦記念に我が会が植樹した伊賀良の桜の生育具合も確認でき、折から、各地の神社は春の祭で、鼎の獅子舞見物のおまけもつきました。

——散る桜、散らぬ桜も、散る桜。地元飯田では毎月16日に無尽を実施、首都圏では年に3回ほど懇親会を開催。昨年からは海外旅行も。今年には台湾旅行を実施。さて、次回は？ もちろん2年後の古希の賀です。

（奥村方敏記）

■高18回

私達、高校18回卒業の有志で作る集いは、酒、ゴルフ、

集まってワイワイ騒ぐのが好きなメンバーで構成され、飲み会とゴルフを毎月交互に行っておりです。

飲み会は、新宿のレストラン風居酒屋にて、話題は高校時代の思い出、そして最近の体調です。強歩、高松祭、クラブ活動等飲むほどに、酔うほどに話が弾み50年前の飯田高校生に戻ってしまいます。また全員が65歳になり、肩、腰が痛い、血圧が高い等、体調



の変化も話題になります。飲みかつしゃべり続け、あつとい間にも3時間半が過ぎます。

ゴルフは、茨城南部のゴルフ場で、楽しいゴルフをモットーに、飛ばなくなった、腰が痛いと言いつながらクラブを振り回し、ジグザグにグリーンを目指しています。

現在、総勢24名です。新規参入されたい方は、A組柴田までご連絡ください。(携帯090-4829-9238) 大歓迎です。(柴田 信記)

■高21回

私達の在京同期会は「赤石21(ハニー)の会」といいます。命名の由来は、高(ハイスクール)の「ハ」に、21の「に・い」だからです。「ハニー」とは蜂蜜をいい、恋人や妻への呼掛けです。つまり、「友愛」の心で共に楽しく生きよう

という願いがあります。

「ハニーの会」は、7年前の在京飯田高校同窓会総会の幹事を務めたことを契機として組織し、毎年2〜3回開催してきました。今年は4月19日に日本橋「越州」で開催しました。当会はいつも談論風発の賑やかな雰囲気です。飲談する一方、全員がそれぞれこれまでの生き様やこだわりを紹介し、互いに「元気」を交換しています。



会での最近の話題は笹子トンネル事故、長寿日本一、リ

ニア新幹線等の時事問題が多いのですが、私達は還暦過ぎて2年を超えたのでやはり健康、年金そして介護の話になります。

まだ現役で働いている人、悠々自適の人等、ひとそれぞれですが、「ハニーの会」に参加できるのも健康あつてのことです。

将来「ピンピンころり」で生涯を終えたいと願いながら、それまで無理をせず健康で楽しく生きようとお互いに誓いました。還暦過ぎてまだ3年目で、人生これからと皆意気軒昂でした。3時間半がアツという間に過ぎ、夜も更けたので再会を期して散会となりました。(大原 直記)

■高22回

「60歳からフル&ウルトラマラソン挑戦」

左眼の網膜剥離の手術を機

に会社を後進に譲り、60歳からマラソンに挑戦しました。20代で2回、青梅マラソン(30キロ)を走ったことはありますが、この30年以上、ゴルフ以外の運動はほとんどやっていません。

自宅近くに住む会社同期の友人から、マラソンを薦められたのがきっかけです。初フルマラソンは、第1回千葉アクアラインマラソン。10月末なのに気温が25℃を超え、途中歩きましたが、4時間27分で完走しました。「何でこんな苦しいことをやっているんだ」と思いながら走っていますが、終わってしばらく経つとまた



走りたくなるから不思議です。

挑戦4回目でサブ4(4時間切り)達成、5月にはウルト라마ラソン(野辺山100キロ)も走りました。標高差約1000mを2回、上り下りします。下りでは足の甲まで痛くなり、思った以上にスピードを出せませんでした。結果は、97キロ地点でタイムオーバー、残念です。途中のエイドで飲食に時間を取り過ぎたのが敗因の一つです。

現在は、月2回のペースでレースに出場しています。来年は海外のレースにも挑戦したいと考えています。1年以内のサブ3.5(3時間30分切り)、ウルトラマラソン完走を目指してトレーニングを続けていきます。(木下安司記)

■高23回

恒例の「ニイサンカイ」が今年6月1日新宿の「虎連



坊」という飲み屋で開かれました。今回は19名と例年に比べて参加者が少なかったのですが、新しい者や久しぶりに出てくれた者もいて盛り上がり、二次会はカラオケであり、懐かしい曲に、みんな年を忘れ、大声を張り上げて歌いました。その後三次会に繰り出した者も何名か居て大変盛り上がった同窓会でした。

昨年還暦を迎えた同窓生の近況です。一番多かった者は会社勤めで定年を迎え再雇用(二年契約)という形で前と

同じように勤めている者、年金をもらえる範囲内で仕事を

している者、開業医などの個人営業をしている者、そして全く仕事からリタイアし毎日時間を持て余している者などですが、みんな仕事はほとんどにして、それ以外で楽しみを持つてやっていたり、今後何か自分の趣味を活かして行けるものを探しているこうとじています。健康のため水泳をはじめた者や東京マラソンに出てフルマラソンで4時間を切った者や、家庭菜園をやっている者は多くいますが「味噌」までも手作りしてしまう程農作業に打ち込んでいる者もいます。これからもみなさん長生きして人生を楽しんでください。(原 泰記)

■高26回

高26回卒業生の会は、「風夢の会」といい、首都圏には

約100名の会員がいます。

飯田での同窓会は2月6日直近の土曜日に毎年開催されていますが、東京でも10月から1月に毎年開催しています。

昨年は、A組担任の伊藤敦先生をお招きして、恵比寿ガーデンプレイスにて開催しました。約20名が参加し、先生を交えて思い出話に花を咲かせました。

昨年9月には、飯田から3名、東京から3名が参加し、



南アルプスの仙丈岳への登山を行いました。下山途中に採取したキノコを入れた鍋が最高のご馳走でした。今年も9月に参加者2倍を目指して計画しています。

本年2月には、青梅マラソンに2名が参加し完走しています。着替えをさせていたただく居酒屋で、走った人も応援だけの人も集まって反省会を開きました。これも定例化していく予定です。

(宮島敏彦記)

■高37回

東京37会は恒例として毎年都内で忘年会と近郊のゴルフ場を利用してコンペを開催し、お互い存在を確認し合っています。今回はちっと別の角度で同期の活動状況を報告します。私は市の嘱託職員として現在飯能市市民活動センターに勤務しています。その関係でイベントを開催でき

る立場にあり、この立場を利用して関東地区で活躍している同期の人を講師に招き、講演会を行いその後、講師の慰労会を兼ねて参加できた同期の人たちでミニ37会を楽しんでいます。その第1回目が昨年平成24年7月1日、丁度市民活動センター開設1周年記念で林泰さん(有楽橋クリニック院長)を講師にお招きし、"上手な年の取り方、健康は最初にして最後の資本"の演題で、"元気な老後を過ご



すための食事、運動、日常生活などについて経験を通してのお話をして頂きました。第2回目が同じく昨年の8月8日で、博士に聞いてみる宇宙の不思議、宇宙って何だろう"の演題で小池惇平さん(宇宙少年分団長)を講師にお招きし、宇宙に果てはあるか、宇宙人はいるか、UFOはいるか、などの疑問を科学的に解説して頂きました。また参加者には山崎直子宇宙朝顔のプレゼントがありました。第3回目は今年8月10日、"関東地域の地震活動と予知の現状"の演題で石田瑞穂さん(海洋研究開発機構)をお招きました。

いずれも主たる対象は飯能市民ですが参加は自由で、狭山、所沢、川越、入間等近隣在住の同期生にも声をかけ講師の慰労会を兼ね、講演会の後ミニ37会を楽しんでいます。

(萩原勝夫記)